

## 2023年度 歴史・考古学メジャー 日本近世史（添田）ゼミ合宿

### 佐賀の魅力を探る旅

2023年9月20日～22日、日本近世史ゼミ（メジャー専門ゼミナールⅠ～Ⅳ）では、佐賀県北部においてゼミ合宿「佐賀の魅力を探る旅」を実施した。これは、近世日本の歩みについて、東アジアとの関わりをふまえて理解する力を養うことを目的として企画したものである。ゼミ生10名が参加し、このうち3年生5名は「武雄鍋島家の蘭学」「鍋島家と武雄温泉」「朝鮮出兵と陶磁器」「海を渡った有田焼」「幻の巨大都市ー肥前名護屋ー」といったテーマについて事前に調査してパンフレットにまとめ、参加者はこれを適宜参照しながら現地を歩いた。

9月20日は、武雄温泉に集合し、武雄市立図書館・歴史資料館を訪れた。学芸員の近藤貴子氏と川添義敦氏から、武雄鍋島家当主・鍋島茂義による蘭学及び舶来品の蒐集について解説を受けた後、カルチュア・コンビニエンスクラブ（TSUTAYAの経営母体）を指定管理者とする全国的にも珍しい図書館の運営状況や蔵書等について調査した。夜は武雄温泉の楼門を訪れて同温泉の歴史を学んだ後、湯めぐりをして旅初日の疲れを癒した。



同 21 日は、有田に移動し、佐賀県立九州陶磁博物館で徳永貞紹氏による解説を受けた。とくに秀吉の朝鮮出兵によって連行されてきた捕虜による作陶や有田焼の世界的な展開について学ぶことができた。午後は、「ブラアリタ」ボランティアガイドの解説を受けながら、泉山磁石場、陶山神社、トンバイ堀など、有田の町並み散策を行った。その後、唐津を経て呼子に移動して宿泊した。



同 22 日は佐賀県立名護屋城博物館において学芸員久野哲矢氏の解説を受け、大規模動員を伴った朝鮮出兵によって現れた名護屋城とその城下町の構造について学んだ。また、名護屋城址での「バーチャル名護屋城」のツアーに参加し、VR を駆使した文化財活用の効果と課題について学ぶこともできた。

学生一同、後援会の皆様のご支援に深く感謝いたします。

